

成人看護学におけるヘルスプロモーション教育での学生の学び —健康教育パンフレット作成を取り入れて—

逸見 英枝*

看護学科

(2006年11月7日受理)

本研究は、成人看護学でのヘルスプロモーションの單元において、「成人期の健康問題を1つ自由に取り上げ、健康教育のためのパンフレットを作成する」という課題を示している。その課題を通して、学生がヘルスプロモーションをどのように理解したかを明らかにし、教育方法の検討の一助とすることを目的として行った。

提出された課題を分析した結果、成人期の健康問題は生活習慣病が主であること、特にタバコについての取り上げ方が社会の注目と共に急増している。ヘルスプロモーションの考え方のキーワードは、健康に関心を持つ、第一次・第二次・第三次予防、支援であり、ヘルスプロモーションの要素は、QOL、健康問題、生活習慣病、個別性、行動変容、知識と技術、受容・共感と理解したことが明らかになった。また、学習意欲や看護への動機づけになり有効な教育方法であることが分かった。

(キーワード) 成人看護学、ヘルスプロモーション、健康教育パンフレット、教育方法

はじめに

成人看護学の基礎として、成人看護の目的、成人期にある人の理解等の内容を構築し、これまでは「成人看護学Ⅰ」としていた。2005年度からは、カリキュラムの改正により名称を変更し「成人看護学概論」として1年次に開講している。学生は、授業開始当初では、看護は疾病をもつ人に対して行われるもの、あるいは、看護は病院内で行われるものというイメージが強いようであるが、成人看護学Ⅰ及び成人看護学概論の授業を通して、ヘルスプロモーションの考え方や成人期にある人の健康問題を考えることで、看護の考え方がいかに広がっていくかを学ぶことが重要となる。「大学における看護実践能力の育成の充実に向けて」のなかに、『看護ケア基盤形成の方法』として、〈健康に関する学習支援の方法〉〈健康管理支援の方法〉という項目が示された¹⁾ため、ヘルスプロモ

ーションに関する教育がさらに必要となる。

筆者は、成人期の特徴やヘルスプロモーションについての理解が深まることを目的とし、科目終了時に成人期の看護問題を1つ取り上げ、健康教育するためのパンフレット作りを課題とさせている。学生は臨地実習において、食事指導や退院時指導など行う際、パンフレットを作成する機会が多い。その意味でも、1年次から、ヘルスプロモーションについての教育に、パンフレット作りという主体的な学習方法を用いての教育成果を考察したので報告する。

1. 研究目的

成人看護学Ⅰ、または成人看護学概論の授業内容としてのヘルスプロモーションに関する單元において、『成人期の健康問題を取り上げ、健康教育を行うためのパンフレットを作る』という課題

*連絡先：逸見英枝 新見公立短期大学 看護学科 718-8585 新見市西方1263-2

を示している。その課題を通して、学生がヘルスプロモーションをどのように理解したかを明らかにし、教育方法の検討の一助とする。

11. 研究方法

1. 研究对象

A 短期大学1998年度から2004年度成人看護学
I、2005年度成人看護学概論を履修した看護学科
1 年次生

2. 研究方法

- 1) 1998年度生から2005年度生までが提出した健康教育パンフレット(B4サイズ1枚程度)から、取り上げたテーマについて分析する。
- 2) 2004年度生及び2005年度生のパンフレットに取り組んだ感想レポート(A4サイズ1枚程度)の内容を、①そのテーマを取り上げた理由、②パンフレットに取り組んだ感想の2点について記述された内容を抽出し、その内容を分析しカテゴリー化する。
- 3) 倫理的配慮
分析にあたっては個人が特定できないよう配慮した。

Ⅲ. 成人看護学Ⅰ、成人看護学概論（成人看護学Ⅰの名称変更）の概要とヘルスプロモーション単元の内容

1. 成人看護学Ⅰ、成人看護学概論の授業概要

成人看護学Ⅰは、本学のカリキュラムを一部改正したため2005年度より成人看護学概論と科目名を変更する。授業概要は同じである。いずれも1単位30時間で、成人看護学Ⅰは1年次の前・後期に、成人看護学概論は、1年次前期に開講している。

尚、進捗については、専門分野の科目として看護学概論を最初に開始する

授業目的：ライフサイクルの中での成人期にある人の特徴を社会や生活の関係から理解し、健康問題について考える。また、看護に有用な概念など理解しながら、成人看護のアプローチの基

本と看護の役割について学ぶ。

授業概要は、以下の通りである。

- 1 回：成人看護の理念
- 2 回：成人期にある人の特徴
- 3 回：身体的、心理・社会的特徴
- 4 回：〃
- 5 回：成人期の健康と健康障害
- 6 回：健康の考え方
- 7 回：健康に影響を及ぼす要因
ライフスタイル、生活習慣病
- 8 回：成人期の健康問題
- 9 回：保健行動
- 10 回：成人期と家族
- 11 回：成人保健の考え方
- 12 回：ヘルスプロモーションとは
- 13 回：成人保健の動向
- 14 回：保健活動における看護の役割
- 15 回：成人看護の役割と機能

2. ヘルスプロモーションの単位について

- 1) 目標：成人期の健康問題を理解し、ヘルスプロモーションの考え方と看護の役割を考え

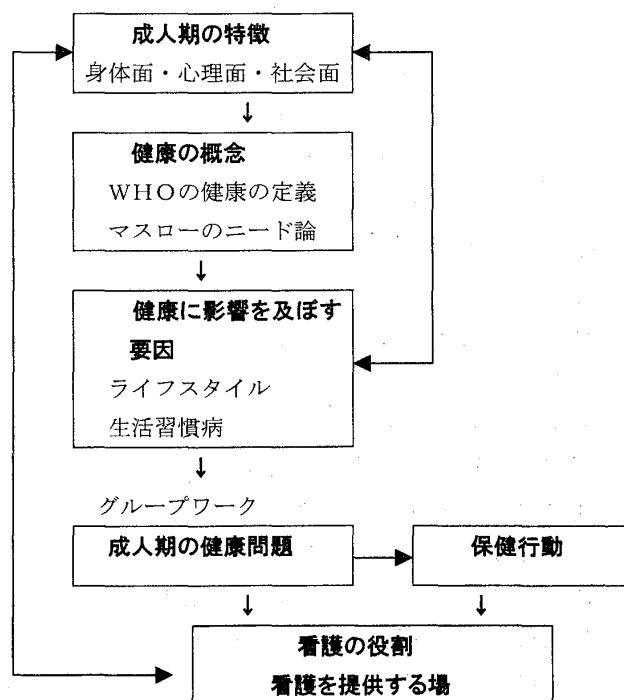


図1 ヘルスプロモーションに関する授業の進め方

る。

2) ヘルスプロモーションに関する授業の進め方 (図1)

まず、成人期にある人の特徴を身体面・心理面・社会面から理解する。次に健康についての考え方をWHOの定義やマスローのニード論を用いながら考えさせる。そして、健康に影響を及ぼす要因を挙げ、ライフスタイルと密着していることを説明し、生活習慣病の成り立ちにつなげる。また、成人期の疾病の特徴等を理解するために、国民衛生の動向(厚生統計協会編)の最新の統計資料を活用する。

それらを基にグループワークを通して、青年期である自分自身あるいは壮年期、向老期の健康問題を身体的、心理・社会的特徴と重ねあわせて考えさせている。人々の保健行動を理解し、健康増進のための看護の役割、看護を提供する場、あるいは、役割の一つでもある健康教育について説明する。そして、授業最終日に課題を示す。

3) 関連科目

A短期学では、看護学概論、援助技術論、保健学総論、各領域の保健に関する単元として青年期と関係する学校保健に関しては小児看護学、母性に関しては母性看護学、職場あるいは地域に関しては地域看護学、精神保健に関しては精神看護学等であり、他の科目の関連性について説明しながら授業を進める。

4) 課題について

課題の目的：①成人期の健康問題をみつける。

②その人の健康管理を支えるための支援活動として、パンフレットを作成することによって、看護の目的、特にヘルスプロモーション

の考え方を理解するための一助とする。

課題の内容：①成人期にある自分あるいは周囲の人をみつめ、健康問題を考えてみましょう。そして、テーマを一つ自由に取り上げ、健康教育するためのパンフレット(B4サイズ1枚程度)を作成しなさい。

②取り組んだ感想を述べなさい。

課題の提出締め切りは、成人看護学Iについては、科目の終了が後期末であったため、春休み後とし、成人看護学概論では、前期末に終了するため、夏休み後とした。

IV. 結果

1. パンフレットに取り上げたテーマ

1998年度から2005年度間(計8回)に取り上げたテーマの総件数は496件で、上位3位は、タバコ77件(15.5%)、糖尿病で69件(13.9%)、高血圧で65件(13.1%)であった。(表1)

1998年度から2005年度に取り上げたテーマをそれぞれの年度において比較すると(表2)、1998年度に取り上げたテーマでは、高血圧、タバコ、肥満、高脂血症、その他に糖尿病、アルコール、骨粗鬆症、腰痛・肩こり等があった。1999年度は、糖尿病、高血圧、肥満及び高脂血症、その他に日常生活・食生活、貧血、タバコ等があった。2000年度は、高血圧、糖尿病、骨粗鬆症、その他にアルコール、タバコ等があった。2001年度、2002年度、2003年度は、タバコ、糖尿病、高血圧で、3年間同じであった。その他には肥満、更年期、結核等があった。2004年度は、タバコ、アルコール、

表1 1998年～2005年間の取り上げたテーマ上位3位

件 (%) 総件数 496 件		
1 位	2 位	3 位
タバコ 77 件 (15.5)	糖尿病 69 件 (13.9)	高血圧 65 件 (13.1)

表2 年度によるテーマの比較

年度・総件数	1 位	2 位	3 位	4 位以下
1998 年度 57 件	高血圧 13 (22.8)	タバコ 肥満 各 5 (8.8)	高脂血症 4 (7)	糖尿病、アルコール、骨粗鬆症、腰痛・肩こりなど
1999 年度 62 件	糖尿病 11 (17.7)	高血圧 肥満 各 8 (12.9)	高脂血症 7 (11.3)	日常生活・食生活、貧血、タバコなど
2000 年度 64 件	高血圧 13 (20.3)	糖尿病 9 (14.0)	骨粗鬆症 6 (9.3)	アルコール、タバコ、食生活等
2001 年度 61 件	タバコ 12 (19.7)	糖尿病 11 (18.0)	高血圧 8 (13.1)	日常生活・食生活、肥満等
2002 年度 73 件	タバコ 17 (23.3)	糖尿病 12 (16.4)	高血圧 9 (12.3)	乳ガン自己検診、肥満等
2003 年度 60 件	タバコ 14 (23.3)	糖尿病 8 (13.3)	高血圧、肥満 アルコール 各 6 (10.0)	更年期、結核等
2004 年度 55 件	タバコ 12 (21.8)	アルコール 6 (10.9)	高血圧 肥満 各 4 (7.2)	糖尿病、メタボリック症候群、脳梗塞ストレス等
2005 年度 64 件	糖尿病 12 (18.7)	タバコ 11 (17.1)	アルコール 高血圧 各 4 (6.2)	肥満・貧血 歯、コンタクトレンズ等

表3 タバコについてのパンフレットのタイトル
(2004年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・ たばことがん ・ タバコの恐怖 ・ タバコで死ぬなら本望ですか ・ 女性とタバコ ・ 赤ちゃんのための
NO SMOKING
<ul style="list-style-type: none"> ・ 禁煙 ・ ノースモーキング ・ 喫煙と肺 ・ 禁煙のすすめ方 ・ 肺がんは急増している

表4 糖尿病についてのパンフレットのタイトル
(2005年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 糖尿病をよく知ろう ・ 肥満糖尿病 ・ 糖尿病三大合併症 ・ 糖尿病は万病の元 ・ 糖尿病について ・ 糖尿病はどんな病気 ・ 昇って見ませんか糖尿病の階段
--

高血圧及び肥満、その他にはメタボリック症候群、脳梗塞等があった。2005年度は、糖尿病、タバコ、高血圧及びアルコール、その他に肥満等があった。表1で示した最も件数の多かったテーマであるタバコは2000年度から取り上げ率1位が続いている。

パンフレットのタイトル名を、タバコについては2004年度、糖尿病については2005年度を挙げた(表3、表4)。タバコについてのパンフレットの内容は、肺がんとの関係、母体への影響などであり、糖尿病については、食事や運動との関係、病気の成り立ちなど説明している。

2. カテゴリーについて

感想レポートを文節、センテンスに分解し、抽出したコードを「☐」、サブカテゴリーを「☐」、カテゴリーを「☐」と表記する。

1) 2004年度感想レポートのカテゴリー (表5)

文節、センテンスに分解した件数は199件であった。これらを分析した結果、22サブカテゴリー、8カテゴリーに類型された。

8つのカテゴリーは【対象へ期待することー健康

に関心を持ち第一次・第二次・第三次予防のための正しい知識を持ってほしい】 【看護、学びへの意欲につながった】 【説明するためには、知識と技術が必要】 【対象の個別性をふまえた内容であること】 【第一次予防について理解できた】 【対象を受容し共感する】 【対象へ期待することーQOLを目指した生活をしてほしい】 【看護者としての姿勢】 と分類した。

【対象へ期待することー健康に関心を持ち第一次・第二次・第三次予防のための正しい知識をもってほしい】 のカテゴリーは、[正しい知識を身につけてほしい] [疾病を理解してほしい] [生活を見直して欲しい] [生活習慣が身体に及ぼす影響を知って欲しい] [疾病の怖さを知ってほしい] [健康について考えてほしい] の6つのサブカテゴリーで構成され、71件 (35.6%) あった。【看護、学びへの意欲につながった】 のカテゴリーは、[健康教育を実際にしたい] [他のテーマでも取り組みたい] [自ら資料を集めた] [達成感があり、興味がわいた] [新たな知識を持つことができうれしい] の6つのサブカテゴリーで構成され、48件 (24.1%) あった。【説明するためには、知識と技術が必要】 のカテゴリーは、[わかりやすく伝えることは難しい] [人に伝えるためには正しい知識が必要] の2つのサブカテゴリーで構成され、27件 (13.5%) であった。【対象の個別性をふまえた内容であること】 のカテゴリーは、[個別性の

表5 2004年度感想レポートのカテゴリー

n=199件

カテゴリー	件(%)	サブカテゴリー	コード
対象へ期待すること…健康に関心を持ち第一次・第二次・第三次予防のための正しい知識をもってほしい。	71件(35.6%)	正しい知識を身につけてほしい	正しい知識を身につけてほしい
		疾病を理解してほしい	疾病を理解してほしい
		生活を見直してほしい	病気が起こるメカニズム、治療の内容を知ってほしい
		生活習慣が身体に及ぼす影響を知ってほしい	生活を見直してもらいたい
		疾病の怖さを知ってほしい	疾病のリスクが身近にあることを理解してもらいたい。
		健康について考えてほしい	食生活の注意
		疾病管理	どんな生活習慣で病気になってしまうのか
		早期発見	疾病の怖さを知ってもらいたい
			健康に危機感を持ってもらう
			健康を自分のものとして考えてほしい
			薬について特に大切なことが理解できたらいい
			副作用についても知って欲しい
			異常を感じたら病院で診察を受ける
			早期発見
看護・学びへの意欲につながった。	48件(24.1%)	健康教育を実際にしたい	また作りたい
		他のテーマでも取組みたい	他の健康問題にも目を向けていきたい
		自ら資料を集めた。	実習でも生かしたい
		達成感があり 興味がわいた	看護を考えるということで興味深いものとなった
		新たな正しい知識を持つことができてうれしい	完成した時は達成感があった
			もっといろいろな文献を読んでみたい
			何冊も本を読んだ
説明をするためには、知識と技術が必要	27件(13.5%)	わかりやすく伝えることは難しい	患者さんにきちんと理解してもらえるようになりたいと思う
		人に伝えるためには知識が必要	知識が豊かになってうれしい
			知識がなければ指導やアドバイスはできない
対象の個性をふまえた内容であること	19件(9.5%)	個性のある内容にすること	専門的な用語をどのように表現すれば伝わりやすいかが難しかった
		その人の生活の様子を知ること	家族の協力を求める
			具体的に人に必要なことはどんなことかを知っておくことが大切
			その人の生活の様子や性格なども深く知っておく必要がある
			その人にあった健康教育ができるようにしたい
第一次予防について理解ができた	16件(8.0%)	生活習慣の改善は、疾病の予防になる	患者の視点にたったもの
			対象となる人へインタビューをした
			対象の生活を1日観察させてもらった
対象を受容・共感すること	9件(4.5%)	生活習慣を変えることは大変	生活習慣を改善することである程度の予防ができる
		相手はどう受けとめるか考えること	第一次予防が必要
			こころの健康
対象へ期待すること…QOLを目指した生活をしてほしい	6件(3.0%)	満足感のある生活	相手はどう受け止めるのかと考えていけないといけないと気付いた
			人によって疾患によって恐怖感を伝える場合がある。
看護者としての姿勢	3件(1.5%)	看護者の態度が対象者の変化に影響する	よりよい生活が送れるよう
			悔いのないよう楽しく過ごす生き方をしてほしい
			作り手の気持ちを込めれば理解してもらえる

ある内容にすること] [その人の生活の様子を知ること] の2つのサブカテゴリーで構成され、19件 (9.5%) であった。【第一次予防について理解できた】のカテゴリーは、[生活習慣の改善は、疾病の予防になる] の1つのサブカテゴリーで構成され、16件 (8.0%) であった。【対象を受容・共感する】のカテゴリーは、[生活習慣を変えることは大変] [相手がどう受けとめるか考えること] の2つのサブカテゴリーで構成され、9件 (4.5%) であった。【対象へ期待すること-QOLを目指した生活をしてほしい】のカテゴリーは、[満足感のある生活] の1つのサブカテゴリーで構成され、6件 (3.0%) であった。【看護者としての姿勢】のカテゴリーは、[看護者の態度が対象者の変化に影響する] の1つのサブカテゴリーで構成され、3件 (1.5%) であった。

2) 2005年度感想レポートのカテゴリー (表6) 文節、センテンスに分解した件数は、187件であった。これらを分析した結果、16サブカテゴリー、8カテゴリーに類型された。

8つのカテゴリーは、【第一次予防についての理解ができた】【学習、実践への意欲がわいた】【説明するためには知識と技術が必要】【対象に期待すること-健康に関心を持ち第一次予防・第二次予防のための正しい知識を持って欲しい】【健康問題について理解ができた】【疾病の理解ができた】【行動変容の大変さが理解できた】【個性をふまえた内容が必要】と分類した。

【第一次予防についての理解ができた】のカテゴリーは【疾病の予防や生活習慣病を予防するために日常生活の改善点の理解ができた】の1つのサブカテゴリーで構成され、56件 (29.9%) であった。【学習・実践への意欲がわいた】のカテゴリーは、[新聞や書物の活用] [他のテーマに取り組み、実際に健康教育をしたい] [知らないことがわかり楽しく取り組めた] [多くの人に伝えたい、伝えたいことがたくさんある] の4つのサブカテゴリーで構成され、46件 (24.5%) であった。【説明するためには正しい知識と技術が必要】のカテゴリーは、[人へ伝えることの難しさを知った] [意欲につながる指導が必要] [自分自身正しい知識を持つことが大切] の3つのサブカテゴリーで

構成され、28件 (14.9%) であった。【対象に期待すること-健康に関心を持ち、第一次予防、第二次予防のための正しい知識を持って欲しい】のカテゴリーは、[疾病について正しい知識を持って欲しい] [早期発見・早期治療の大切さ] [健康に危機感を持って欲しい] [健康問題と生活習慣は関係があることを知って欲しい] の4つのサブカテゴリーで構成され、24件 (12.8%) であった。【健康問題について理解できた】のカテゴリーは、[健康問題に関心をもつようになり、理解が深まった] の1つのサブカテゴリーで構成され、12件 (6.4%) であった。【疾病の理解ができた】のカテゴリーは、[疾病を理解できた] の1つのサブカテゴリーで構成され、11件 (5.8%) であった。【行動変容の大変さが理解できた】のカテゴリーは、[生活習慣を改善する大変さを知った] の1つのサブカテゴリーで構成され、5件 (2.6%) であった。【個性をふまえた内容が必要】のカテゴリーは、[一人一人に合わせたもの] の1つのサブカテゴリーで構成され、5件 (2.6%) であった。

V. 考察

1. ヘルスプロモーションについての理解

1). パンフレットに取り上げたテーマからみた成人期の健康問題の理解

授業で学んだことを基に、成人期の特徴や健康面から、自分自身あるいは家族など周囲の人々を観察する機会が必要と考え、課題は春休み、あるいは夏休みに取り組めるよう期間をとっている。取り上げたテーマは生活習慣病が主になっており、パンフレットの内容は、生活習慣と疾病との関係、生活の中で注意することなどをまとめている。生活習慣病の人が身近に存在し、そのため、生活習慣病を身近に実感したからであろうが、授業内容との関係について考えたい。主要傷病別総患者数の第1位、第2位は、糖尿病、高血圧が占めている。8年間のテーマで学生が多く取り上げたのは、糖尿病、高血圧であり主要傷病別総患者数と共通している。授業では、健康状態の経過、推移に関する統計を用いるため、統計の内容から

表6 2005年度感想レポートのカテゴリー

n=187件	
カテゴリー件(%)	サブカテゴリー コード
第一次予防についての理解ができた 56件(29.9%)	生活習慣から起こる生活習慣病の予防は日常のちょっとしたことを改善するだけで十分効果がある
	毎日のちょっとした行動でも様々な病気の予防につながる
	病気は予防することができることを知った
	病気を防ぐために改善する点がこんなにあった
	生活習慣病やガンなど日常の食生活の乱れが重なることで、病気を発症している。
主体的に調べることにより学習・実践への意欲がわいた 46件(24.5%)	新聞や書物の活用
	新聞なども読むようになった 看護の本に自ら進んで目を向けていく 看護だけに限らず様々な記事や資料・書物に目を通すこと
	他のテーマに取り組み、実際に健康教育をしたい
	健康教育をしたい たくさんの知識を得ることができたので アドバイスをしたいと思う
	知らないことがわかり楽しく取り組めた
	知らないことたくさん分かった 病気についてよくわかった とてもおもしろかった
	多くの人に伝えたい、伝えたいことがたくさんある いろんな人に利用したい みんなに見て欲しい 伝えたいことが沢山あった
説明するためには知識と技術が必要 28件(14.9%)	相手に分かりやすく「伝える」「説明する」ことの大切さ知った 自分が調べたことを人に伝えるということの難しさを感じた
	分かりやすく、見たいと思われる物を作成するのは本当に大変だった 資料を集めたが資料が多くてどのよう にまとめれば分かりやすいかと考えるのに時間がかかった。
	どんな内容を入れればより意識をもってもらえるか 様々な視点で考え自らやる気を持って努力するという意欲を引き出す 実践してもらえるかが一番大切なこと
	自分自身正しい知識を持つことが大切 間違ったことは教えられないと思った 自分自身十分な知識をもって行うことも重要
	意欲につながる指導が必要
	健康について正しい知識をもって欲しい 病気にについての正しい理解を深めて欲しいと思った
	早期発見・早期治療の大切さ 健康に危機感をもって欲しい 早期発見、早期治療が必要 自分の健康についてもっと真剣に考えてもらいたい。
対象に期待すること・健康に関心を持ち、第一次予防・第二次予防のための正しい知識を持ってほしい 24件(12.8%)	小さい年代の人にも食生活がいかに大切か理解して欲しい 普段の生活で気をつけて欲しいこと理解してもらいたい
	健康問題と生活習慣は関係があることを知って欲しい 健康問題に関心を持つようになり、理解が深まった
	健康問題に関心を持つようになった
健康問題について理解ができた 12件(6.4%)	
疾病の理解ができた 11件(5.8%)	疾病を理解できた 病気についてよくわかった
行動変容の大変さが理解できた 5件(2.6%)	生活習慣を改善する大変さを知った 生活習慣を改善しなければならないが食生活を変えることはかなり大変だ
個別性をふまえた内容が必要 5件(2.6%)	一人一人に合わせたもの 人間は一人一人価値観が全く違うし 一人の価値観を大切にしたい援助 対象者の職業や生活を考え工夫した

疾病に関心がわいたのではないかと考える。また、授業中の小テストで死因順位第10位までを毎年出題している。1年次前期には疾患についての履修はなく、死亡順位で初めて専門的な疾病にふれることになる。疾病に興味を持ってほしい意味でも小テストを行っている。高血圧は死因の第3位である脳血管疾患との関係があることや食生活、特に塩分摂取量との関係で関心がわいたのではないかと考える。糖尿病については、肥満とも結びつけてテーマを取り挙げているが、食生活や運動など生活習慣と結びつけての理解がしやすいことから、授業において、糖尿病患者の事例を度々上げていることも影響しているのではないかと考える。また、糖尿病患者のセルフケアについて説明をするときは、知識の必要性や他の科目との関連性、次に具体的に履修する機能障害別成人看護学へ継続することなどについても実感してほしいこともあり、食品の単位、インスリン、血糖値、自己注射等の言葉を使い、食事指導の際の食品模型を提示している。糖尿病についての取り上げ率が高いのはこのような授業を通してイメージしやすいのではないかと考える。タバコについては、取り上げ率が最も高い。統計で癌での死因の第1位

は肺癌であることを知り、また、健康増進法の施行など社会的な問題として身近にとらえ時代を反映した傾向といえる。癌については、死因の第1位でもあり、癌患者の体験記や乳癌予防啓発運動のシンボルであるピンクリボンなど紹介しているが、乳癌の自己検診などについては少ない。他の癌についても目を向けさせたい。また、健康日本21で打ち出された歯の健康や心の健康についての件数が少ない。主要傷病別総患者数では歯及び歯の支持組織の疾患は第2位に挙げられていることから、今後授業で強調させる必要がある。心の問題やストレスは、青年期、壮年期の特徴的な健康問題でもあり意識づけたい。また、2004年度にメタボリック症候群が1件取り上げられていた。感想レポートに、「知らないことなので調べてみたかった」と述べており、トピックスに目を向けるようにしたいと考える。

2). 感想レポートからみたヘルスプロモーションの要素 (図2)

ヘルスプロモーションをどのように理解しているか、カテゴリーの内容に注目する。

(1) ヘルスプロモーションとは

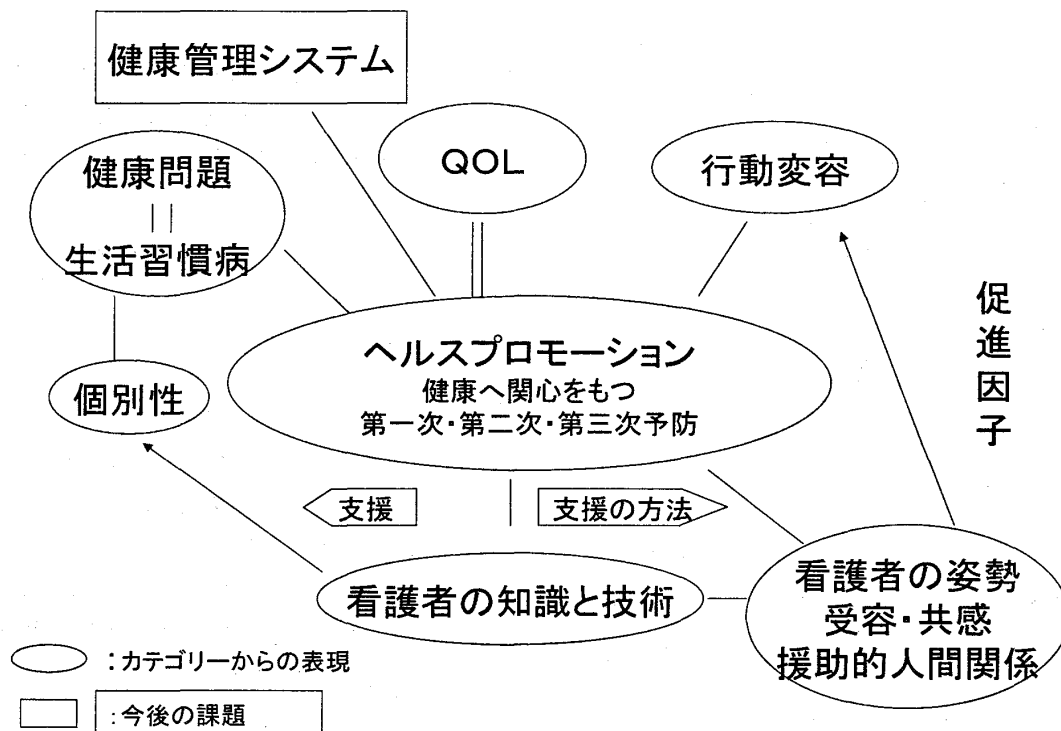


図2 ヘルスプロモーションの要素

2004年度、2005年度に共通して挙げられているカテゴリは、対象へ期待することとして、【健康に関心を持ち第一次予防・第二次予防・第三次予防のための正しい知識を持ってほしい】(2004年度)、【健康に関心を第一次予防・第二次予防についての正しい知識を持ってほしい】(2005年度)がある。これらの内容は、“人々が自らの健康をコントロールできるよう、第一次予防・第二次予防・第三次予防について正しい知識が持てるよう支援したい”と言い換えることができ、ヘルスプロモーションにおける看護の役割や対象者への健康教育の内容を理解したといえる。さらに対象へ期待することとして、【QOLをめざす】(2004年度)とある。これは、授業中に示している、健康の定義(WHO)、マスローのニード論などの健康のとらえ方でもあり、さらに発展させ看護の目的に結びつけることができている。

(2) 看護の視点

共通するカテゴリに【第一次予防が理解できた】があり、これは、パンフレットにとりあげたテーマが主として生活習慣病であることと関連する。【健康問題が理解できた】(2005年度)ということからも、成人期の健康問題は生活習慣病が中心となり、ヘルスプロモーションの焦点は、生活習慣病であると理解している。

2004年度は対象へ期待することとして第一次・第二次予防以外に第三次予防という言葉が表現されているが、2005年度は第二次予防までの表現になっており、ヘルスプロモーションの理解は第二次予防までという理解である。また、第三次予防でもある疾病管理については、2004年度には、【対象へ期待することとしての疾病の管理】とあり、2005年度は学生自身の理解のレベルでの【疾病の理解ができた】という表現となっている。2004年度は、ヘルスプロモーションの単元や課題を示す1年次後期では、すでに疾患を学ぶ各科目は開始されている。しかし、2005年度はカリキュラムの改正により本科目は前期に開講していることから、疾患を学ぶ科目はこの時期開講されていない。そのため、学生は疾患について自分自身が理解することに力点がおかれ、看護の役割としての第三次予防の理解には至らなかったのではない

かと思われる。ヘルスプロモーションを考える場合、疾患についての知識が必須であり、各関連科目とのつながりが大切となる。疾患についての理解の仕方に望むことは、看護の視点つまり生活の視点で捉え直してほしいことにある。

(3) 支援の方法

～ 対象の個別性 ～

【日常生活が身体に影響を及ぼす要因を知って欲しい】[疾患の成り立ちは生活習慣と関係がある][一人一人にあわせたもの][対象者へ1日の過ごし方についてインタビューをした][対象者の生活を1日観察した][対象者の価値観や職業を考えた]とあり、【個別性をふまえた内容が必要】としているように、看護の重要な視点に着目できている。

共通するカテゴリとして【正しい知識・技術が必要】として、[人へ伝えることの難しさ][意欲につながる内容]を実感している。高橋は、看護基礎教育のなかで、患者教育を明確に位置づけ、看護の教育的側面を強化することは、結果的に看護の質を高めることに関係し重要である。また、学生は十分に納得し、理解し、熟知し、熟達の域に達していないと患者教育ができないので、試行錯誤の結果、患者が自己管理に向かったときの感動は大きく看護にコミットメントするきっかけとなる。と述べ、患者教育を行うための教育内容として、①患者教育の理念、患者教育過程に関すること②人の生活行動、保健行動③教育、授業、教育技法に関すること④患者教育の教材、媒体に関すること⑤個人に対する患者教育の演習、集団に対する患者教育の演習を示している²⁾。授業のなかにこれらの内容を系統的に取り入れ、さらに臨地実習につなげていきたい。

～ 看護の基本姿勢 ～

共通するカテゴリに、【行動変容の大変さを知った】[生活習慣を変えることは大変]また、[相手がどう受けとめるか考えること][相手を受容・共感すること][作り手の気持ちを込めれば理解してもらえる]という【看護者の姿勢】(2004年度)があり、対象理解、看護の基本的姿勢の重要性を実感している。ヘルスプロモーションには行動変容が重要要素であり、ベッカーは、健康信

念モデルを示し、病者役割行動を変化または促進する因子の1つに医師—患者間の相互作用³⁾をあげている。つまり、行動変容は看護者—対象者の相互作用に関係し、ヘルスプロモーションには看護師と対象者の相互作用を基盤とするケアリングの概念に通ずることが理解できたことは意義深い。

2. 健康教育パンフレット作成を取り入れたヘルスプロモーション教育の意義

1) 看護ケア基盤の育成

「大学における看護実践能力の育成の充実に向けて」(平成14年、看護学教育の在り方に関する検討会報告)に、『看護ケア基盤形成の方法』として①看護の展開方法。②療養生活支援の方法。③人間尊重・擁護の方法。④援助的人間関係の方法。⑤健康に関する学習支援の方法。⑥健康管理支援の方法。⑦チームワークの基本とマネジメント方法。⑧成長発達各期の支援方法。8項目の学習の必要性が示された⁴⁾。このうち⑤健康に関する学習支援の方法⑥健康管理支援の方法についての具体的内容は、それぞれ健康学習支援、予防的看護の実践についてであり、本科目のヘルスプロモーションに該当する内容である。成人看護学Ⅰ、または、成人看護学総論で、ヘルスプロモーションの単元を設け、健康問題について、健康教育パンフレットを作成するという課題は、今回提出された内容を分析した結果からみて、看護学教育の在り方に関する検討会が謳っている健康に関する学習支援の方法、健康管理支援の方法についての第一歩が理解できたといえる。また、看護ケア基盤形成に示されている③人間尊重・擁護の方法④援助的人間関係の方法に関わる受容・共感、看護者—対象者との相互関係に気づいたことは、看護ケア基盤形成の上で重要な学習ができたといえ意義深いと考える。

2) 発見学習・体験学習・主体的学習の成果

健康問題を見つけ、パンフレットを作成するために、「対象者へインタビューをした」「生活の様子を1日観察した」「自ら資料を集めた」など、主体的な学習行動を喚起し、また、「専門用語をど

のように表現すれば伝わりやすいか難しかった」「調べた内容をどのようにまとめるとよいか時間がかかった」というように 思考過程を育成することができる。[他のテーマにも取り組みたい][健康教育を実際に行してみたい][知らないことがわかり楽しく取り組めた][いろいろな文献を読みたい][多くの人に伝えたい][看護に興味があった]等々知的満足感を得、学習への意欲、看護への関心へと広がっている。また、「間違ったことは教えられない、十分な知識をもつこと」とあり、看護専門職としての責務をも自覚している。

小山は、「いかにすれば学生が興味をもって主体的に取り組むことができるか、学生の自主性を引き出し主体的に取り組む力を育てるには、学生が『おもしろみ』を感じられる教育内容や教育方法を工夫する必要がある。「おもしろみ」といってもただ単に「ああ、おもしろかった」で終わるのでなく、「やってみてもいいな」と思えるだけの動機づけになるものである⁵⁾。」また、藤岡は、「看護学生が看護のイメージをつかみ、看護への興味・関心を高め、看護者に必要な知識・技術を身につけさせていくのは、看護教員の教育技法として現れる具体的な教育的かわりである⁶⁾。」と述べている。学生自身、自分の周囲を観察し、健康問題を見つけ、そして資料を集め、考え、紙面の中に対象者を浮かべながらパンフレットに表現するという発見学習・体験学習・主体的学習は、看護への動機づけとなる有効な教育方法といえる。

3. 今後の課題

今回、パンフレットのテーマに心の健康について取り上げ方が少なく、感想レポートにおいても「心の健康教育が必要」とあったのは1コードのみであった。また、家族に関して「家族の協力」が1コードのみであった。授業では心の健康については、健康に影響を及ぼす要因の1つとしてストレスを挙げて説明しており、家族看護については1つの単元として取り上げ展開しているが、ヘルスプロモーションと結びつけての理解には至っていないことがわかった。また、本科目において、

看護の場についての理解が広がることを期待しているが、本授業では、健康管理システムについては、他の関連科目に委ねていることもあり具体的には触れていない。そのため、今回の課題では、直接的に結びつけることができにくいと考える。授業の展開に検討の必要がある。

学生が課題を提出する時期は、すでに授業は終了しており、全体的な感想などの評価を学生に返すことができていないため、授業計画の検討の余地がある。また、作成したパンフレットを使用し、対象とした人に健康教育を実際に行うことができれば、さらに学びも深まると考える。しかし、成人看護概論の授業の中で行うことは難しいため、次に履修する機能別成人看護学へつなげ、さらに成人看護学臨地実習での体験に期待しているのが現状である。実習でどの程度経験できているか、1年次の学びがどのように活かされているか検討したい。

『看護ケア基盤形成の方法』に〈健康に関する学習方法〉〈健康管理支援の方法〉として卒業時までの到達度が示されている。また、感想レポートに、支援するためには【知識と技術が必要】というように具体的な実践能力が求められている。支援技術に対しての教育内容をカリキュラムに組織的・系統的に構築していく必要がある。

引用・参考文献

- 1) 看護学教育の在り方に関する検討会報告：大学における看護実践能力の育成の充実に向け、3, 26, 2002
- 2) 高橋みや子：看護基礎教育における患者教育、看護教育32 (9), 522, 1991
- 3) Becker, M.H：成人看護学1 成人看護学総論、医学書院, 109, 1996
- 4) 1) と同じ
- 5) 小山真理子：看護教育講座2 看護教育のカリキュラム、医学書院, 7, 2000
- 6) 藤岡完治, 野村明美：わかる授業をつくる看護教育技法3 シミュレーション・体験学習、医学書院, 3, 2000
- 7) 小松浩子他著：系統看護学講座専門5成人看護学1 成人看護学総論、医学書院, 2004
- 8) 厚生統計協会篇：国民衛生の動向, 2004年第51巻第9号
- 9) 大西和子他篇：成人看護学 ヘルスプロモーション, ヌーヴェルヒロカワ, 2006
- 10) 後閑容子他篇：基礎看護学 保健科学概論、廣川書店, 2001
- 11) 市原多香子他：脳血管障害患者に対する継続的生活指導教室を体験した学生の学習 成果の検討, 第30回日本看護学会論文集—看護教育—, 日本看護協会, 1999

Students' Learning in Health Promotion Unit of Adult Nursing — Through Health Promotion Pamphlet Making —

Fusae HENMI

Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

This study deals with an assignment in the unit of health promotion in the course of Adult Nursing: Pick up any health issue in adult age and make a pamphlet for health education. Through the assignment, I try to clarify how the students understand health promotion, and to develop the teaching method.

Among the topics students picked up, lifestyle-related disease is the most frequently chosen topic, especially related to smoking which matches the social trend. It is clarified that the students understand the important factors in health promotion are: getting interested in one's health, protection in the first stage, the second stage, and the third stage, and support. It is noted that they understand factors in health promotion are QOL, health problems, lifestyle-related disease, individuality, behavioral changes, knowledge and skill, acceptance and sympathy. We can motivate the students in this way of teaching, so we can say that this is an effective way of teaching.

Key Words: Adult Nursing, Health Promotion, Health Education Pamphlet, Teaching Method